

金科および彫刻科志望者は彫塑または絵画を選んでよいこととなった。なお、「彫刻」という課目名が大村西崖の造語である「彫塑」へと変わった点も注目される。

次に、予備の課程の学科目が一部改正され、甲種、乙種ともに「書学」（週一時）が削除されてその分「歴史」の時間数が増加した。

2 卒業

卒業式は、七月十日に行われた。

3 学術実地指導

竹内久一、島田友春、向井勝幸、中村勝治郎ら教官が四年生三十数名を引率して奈良、京都古社寺宝物の見学旅行を行なった。

4 宝物修繕

明治三十三年から三十四年にかけて依頼製作事業の一環として滋賀県・広島県・大阪府下社寺宝物の修繕と滋賀県下社寺宝物の修繕とが彫刻科教授竹内久一監督のもとで本校教官や卒業生、研究科生徒によって行われた。竹内はそのために三十三年二月十五日、同年十月三十一日、三十四年三月十五日、同年五月二十二日、同年十一月六日の計五回出張を命ぜられている（『東京美術学校旧職員履歴書』）。三十三年には信谷友三（明治三十年彫刻科卒）が助手として竹内に同行し、広島県下から着手した。この事業は日本美術院との分担で行なったもので、同院側の代表は新納忠之介（明治二十七年本校彫刻科卒）であった。三十三年中の修理の様子について

て諸紙が次のように伝えている。

○國寶物修繕に就て 本縣下寺院に於ける國寶物保存修繕の件に就ては曩に本縣廳より東京美術學校へ依頼せられたるに付今回同校教授竹内久一古社寺國寶修繕現場技術兼雜務副主任信谷友三（明治三十年彫刻科卒）の兩氏は同校生徒五六名を引連れ來廣し右二氏は昨日本縣廳に出頭山田書記官並第一課社寺係等に面會談話する處ありたり 而して右一行は同日午後より嚴島に渡り修繕場所の位置取定めの上同島大願寺及光明院にある國寶の修繕に着手する筈なりしが同島に於ける修繕終り次第順次尾道市の淨土寺、西國寺、沼隈郡草戸村明王院等に於ける同寶物の修繕に着手する筈なりと云ふ

（明治三十三年二月二十七日『藝備日々新聞』）

○國寶の修繕 河内國金剛寺及び嚴島神社には本邦美術品の精英を鐘め國寶となすべきもの少なからざるが維新以來之れが修繕をなすものもなく追々破損に及ぶを以て之れを修繕し日本美術をして永く保存の道を立てんとて金剛寺の方へは日本美術院の會員出張し嚴島の方へは東京美術學校の教授及び研究生出張したるが右兩方の監督としては美術學校卒業生新納忠之助氏之れに當り一昨日出張したり 此修繕には一年の日月を要すべしとの事なり

（明治三十三年三月七日『千代田日報』）

○広島縣寶物修繕 広島縣に於ける古社寺寶物中竹内久遠氏が巡視監督の下に修繕を加へたる嚴島大願寺の釋迦、阿南、迦葉、藥師、光明院の彌陀、恵心僧都の像等ハ既に落成し、福山明王院の觀音（天平時代の作）、尾の道光明寺の十一面觀音、同西國寺の藥師、釋迦及夫の松蟲の鈴の箱

等ハ不日竣工するに付修繕隊は續いて大坂府の寶物に着手する筈なり
(明治三十三年六月二十五日『読売新聞』)

○大坂府下の國寶 同府下の古社寺たる四天王寺、泉穴師神社、觀心寺、河合寺、金剛寺、道明寺、安福寺の什寶にして國寶となりし神體佛像の修繕ハ内務省の古社寺保存計畫調査囑托委員新納忠之助氏主任となり各神社に出張して美術學校生徒美術院の技師等を指揮し春來修覆に着手しこの程全く終了したりと

(明治三十三年十一月二十四日同紙)

5 依囑制作および精芸会

本校の依囑製作事業は明治三十一年の美術學校騒動の折りに反岡倉派が批判の鋒先を向けた問題点の一つであった。本校がその批判を容れて事業を廃止したか否かについては正式記録が無いが、明治三十一、二年報に宝物修繕に関する記事以外は何ら記載されていないところを見ると、一時事業を中止したことが考えられる。ただし、その間は精芸会(本書第一卷395頁参照)が盛んに依囑製作を行なった。これについては大村西崖が次のように記している。

○美術通信 △△生

「上略」△精藝會といへるは美術學校卒業生の組織にかゝり、一時九鬼「隆一」の後押とか鹿嶋「清兵衛か」が金主なりとか、種々様々の取沙汰ありたれど、其後發起者等の盡力にて此程は數多の依囑事業あり、いま二三を挙げれば、三嶋東宮侍講の銅像は黒岩淡齋氏^哉の塑造中、築地本願寺の建築附屬彫刻は契約済み、京都北垣男爵の銅像原型は白井雨山氏

將に着手せんとし、某家の金屏風は結城素明、山崎勇馬二氏の稿中に係り、某所の馬像大紀念碑圖案は今正に懸賞募集せられ大阪に建てらるべき楠公騎馬像木型は既に修理工事に取掛れり、其他の申込み亦尠なからずと聞く、會員たるもの須らく努力すべし

(明治三十二年二月十四日『時事新報』)

明治三十三年度に至り、本校の依囑製作事業の件数は再び増加する。その発端は東宮御成婚奉祝献納品の製作依頼にあったようである。本年度の製作品の担当者は次のとおりである。

菊藤掛物(東宮御成婚奉祝献納品) 設計久保田鼎、製作荒木寛敏、軸製作向井勝幸

御慶事賀表(同) 担当者未詳

桐鳳凰掛物(同) 製作川端玉章

龍銀製麒麟置物(同) 製作海野勝珉

藤原時代木彫舎人像(同) 意匠考案通信省郵務課長樋畑正太郎、彫刻

高村光雲

鍛鉄花瓶(同) 製作主任海野勝珉、彫金担任向井勝幸、鍛金担任平田

宗幸、図案川端玉章

銅製鶴(同、沼津御用邸用) 担当者未詳

吉田健康胸像(長崎市諏訪公園へ設置) 鑄造桜岡三四郎

関連事項

① 職員任免その他

明治三十三年
一月九日

囑託大村西崖は東洋美術史講義(從來今泉雄作担当)